

No.	タイトル	著者
1	世界怪談名作集 14 ラザルス	アンドレーエフ レオニード・ニコラーエヴィチ
2	変身	カフカ フランツ
3	世界怪談名作集 12 幻の人力車	キプリング ラダヤード
4	世界怪談名作集 13 上床	クラウフォード フランシス・マリオン
5	世界怪談名作集 05 クラリモンド	ゴーチェ テオフィル
6	世界怪談名作集 17 幽霊の移転	ストックトン フランシス・リチャード
7	神曲 01 地獄	ダンテ アリギエリ
8	神曲 02 浄火	ダンテ アリギエリ
9	神曲 03 天堂	ダンテ アリギエリ
10	世界怪談名作集 06 信号手	ディケンズ チャールズ
11	世界怪談名作集 07 ヴィール夫人の亡霊	デフォー ダニエル
12	世界怪談名作集 09 北極星号の船長 医学生ジョン・マリストラーの奇異なる日記よりの抜萃	ドイル アーサー・コナン
13	イワンの馬鹿	トルストイレオ
14	世界怪談名作集 04 妖物	ピアス アンブローズ
15	世界怪談名作集 03 スペードの女王	プーシキン アレクサンドル・セルゲーヴィチ
16	世界怪談名作集 11 聖餐祭	フランス アナトール
17	世界怪談名作集 08 ラッパチーニの娘 アウペパンの作から	ホーソーン ナサニエル
18	世界怪談名作集 10 廃宅	ホフマン エルンスト・テオドーア・アマードウス
19	世界怪談名作集 16 鏡中の美女	マクドナルド ジョージ
20	世界怪談名作集 15 幽霊	モーパッサン ギ・ド
21	世界怪談名作集 02 貸家	リットン エドワード・ジョージ・アール・ブルワー
22	ジャン・クリストフ 03 第一巻 曙	ロラン ロマン
23	ジャン・クリストフ 04 第二巻 朝	ロラン ロマン
24	ジャン・クリストフ 05 第三巻 青年	ロラン ロマン
25	ジャン・クリストフ 06 第四巻 反抗	ロラン ロマン
26	ジャン・クリストフ 07 第五巻 広場の市	ロラン ロマン
27	ジャン・クリストフ 08 第六巻 アントアネット	ロラン ロマン
28	ジャン・クリストフ 09 第七巻 家の中	ロラン ロマン
29	ジャン・クリストフ 10 第八巻 女友達	ロラン ロマン
30	ジャン・クリストフ 11 第九巻 燃ゆる荊	ロラン ロマン
31	ジャン・クリストフ 12 第十巻 新しき日	ロラン ロマン
32	誤まれる姓名の逆列	伊東 忠太
33	建築の本義	伊東 忠太
34	国語尊重	伊東 忠太
35	日本建築の発達と地震	伊東 忠太
36	妖怪研究	伊東 忠太
37	押しかけ女房	伊藤 永之介
38	去年	伊藤 左千夫
39	茶の湯の手帳	伊藤 左千夫
40	隣の嫁	伊藤 左千夫
41	春の潮	伊藤 左千夫
42	ある男の墮落	伊藤 野枝
43	出奔	伊藤 野枝
44	成長が生んだ私の恋愛破綻	伊藤 野枝
45	転機	伊藤 野枝
46	「婦人解放の悲劇」自序	伊藤 野枝
47	「別居」について	伊藤 野枝
48	わがまま	伊藤 野枝
49	思ひ出すままに「文藝春秋」と菊池と	宇野 浩二
50	質屋の小僧	宇野 浩二
51	質屋の主人	宇野 浩二
52	「鱧の皮 他五篇」解説	宇野 浩二
53	越後獅子	羽志 主水
54	監獄部屋	羽志 主水
55	今、生まれしみどり児	羽仁 もと子
56	おさなご	羽仁 もと子
57	おさなごを発見せよ	羽仁 もと子
58	親子の愛の完成	羽仁 もと子
59	たましいの教育	羽仁 もと子
60	最も楽しい事業	羽仁 もと子
61	穂高岳槍ヶ岳縦走記	鶴殿 正雄
62	或夜	永井 荷風
63	一月一日	永井 荷風
64	一夕	永井 荷風
65	上野	永井 荷風
66	江戸芸術論	永井 荷風
67	男ごころ	永井 荷風
68	買出し	永井 荷風
69	海洋の旅	永井 荷風
70	書かでもの記	永井 荷風
71	葛飾土産	永井 荷風
72	鐘の声	永井 荷風
73	荷風戦後日歴 第一	永井 荷風
74	狐	永井 荷風
75	銀座	永井 荷風
76	草紅葉	永井 荷風
77	里の今昔	永井 荷風
78	十九の秋	永井 荷風
79	十六、七のころ	永井 荷風
80	小説作法	永井 荷風

81	妾宅	永井 荷風
82	桑中喜語	永井 荷風
83	黄昏の地中海	永井 荷風
84	断腸亭日乗〔はしがき〕	永井 荷風
85	断腸亭日乗 断腸亭日記卷之三大正七戊午年	永井 荷風
86	断腸亭日乗 断腸亭日記卷之三大正八年歳次己未	永井 荷風
87	巷の声	永井 荷風
88	つゆのあとさき	永井 荷風
89	梅雨晴	永井 荷風
90	帝国劇場のオペラ	永井 荷風
91	寺じまの記	永井 荷風
92	伝通院	永井 荷風
93	十日の菊	永井 荷風
94	夏の町	永井 荷風
95	にぎり飯	永井 荷風
96	花より雨に	永井 荷風
97	百花園	永井 荷風
98	日和下駄(一名 東京散策記)	永井 荷風
99	深川の唄	永井 荷風
100	深川の散歩	永井 荷風
101	葡萄棚	永井 荷風
102	古本評判記	永井 荷風
103	放水路	永井 荷風
104	舞姫	永井 荷風
105	正宗谷崎両氏の批評に答う	永井 荷風
106	町中の月	永井 荷風
107	水のながれ	永井 荷風
108	水 附渡船	永井 荷風
109	向嶋	永井 荷風
110	虫の声	永井 荷風
111	虫干	永井 荷風
112	申訳	永井 荷風
113	元八まん	永井 荷風
114	矢立のちび筆	永井 荷風
115	矢はずぐさ	永井 荷風
116	夕立	永井 荷風
117	雪の日	永井 荷風
118	夜あるき	永井 荷風
119	羊羹	永井 荷風
120	洋服論	永井 荷風
121	来青花	永井 荷風
122	裸体談義	永井 荷風
123	霊廟	永井 荷風
124	礫川徜徉記	永井 荷風
125	路地	永井 荷風
126	断腸亭日乗 断腸亭日記卷之四大正九年歳次庚申	永井 荷風
127	この子を残して	永井 隆
128	長崎の鐘	永井 隆
129	ロザリオの鎖	永井 隆
130	上海	横光 利一
131	頭ならびに腹	横光 利一
132	一条の詭弁	横光 利一
133	鵜飼	横光 利一
134	御身	横光 利一
135	機械	横光 利一
136	汚ない家	横光 利一
137	嬰粟の中	横光 利一
138	作家の生活	横光 利一
139	時間	横光 利一
140	詩集『花電車』序	横光 利一
141	静かなる羅列	横光 利一
142	純粹小説論	横光 利一
143	新感覚派とコンミニズム文学	横光 利一
144	新感覚論(感覚活動と感覚的作物に対する非難への逆説)	横光 利一
145	神馬	横光 利一
146	父	横光 利一
147	厨房日記	横光 利一
148	犯罪	横光 利一
149	鳥	横光 利一
150	七階の運動	横光 利一
151	ナポレオンと田虫	横光 利一
152	南北	横光 利一
153	日輪	横光 利一
154	蠅	横光 利一
155	花園の思想	横光 利一
156	榛名	横光 利一
157	春は馬車に乗って	横光 利一
158	火	横光 利一
159	比叡	横光 利一
160	微笑	横光 利一
161	碑文	横光 利一

162	琵琶湖	横光 利一
163	街の底	横光 利一
164	マルクスの審判	横光 利一
165	無常の風	横光 利一
166	盲腸	横光 利一
167	黙示のページ	横光 利一
168	夢もろもろ	横光 利一
169	洋灯	横光 利一
170	夜の靴——木人夜穿靴去、石女暁冠帽帰(指月禪師)	横光 利一
171	旅愁	横光 利一
172	笑われた子	横光 利一
173	田舎の新春	横瀬 夜雨
174	五葉の松	横瀬 夜雨
175	女子文壇の人々	横瀬 夜雨
176	筑波ねのほとり	横瀬 夜雨
177	天狗塚	横瀬 夜雨
178	花守	横瀬 夜雨
179	春	横瀬 夜雨
180	べつ甲蜂	横瀬 夜雨
181	東海道五十三次	岡本 かの子
182	曾長	岡本 かの子
183	秋の夜がたり	岡本 かの子
184	或る秋の紫式部	岡本 かの子
185	或る男の恋文書式	岡本 かの子
186	ある男の死	岡本 かの子
187	異国食餌抄	岡本 かの子
188	異性に対する感覚を洗練せよ	岡本 かの子
189	一平氏に	岡本 かの子
190	上田秋成の晩年	岡本 かの子
191	英国メーデーの記	岡本 かの子
192	越年	岡本 かの子
193	岡本一平論——親の前で祈祷	岡本 かの子
194	雛妓	岡本 かの子
195	おせっかい夫人	岡本 かの子
196	良人教育十四種	岡本 かの子
197	男心とはかうしたもの -女のえらさと違う偉さ	岡本 かの子
198	愚かな男の話	岡本 かの子
199	愚なる(?)母の散文詩	岡本 かの子
200	快走	岡本 かの子
201	街頭(巴里のある夕)	岡本 かの子
202	過去世	岡本 かの子
203	風と裾	岡本 かの子
204	勝ずば	岡本 かの子
205	褐色の求道	岡本 かの子
206	かの女の朝	岡本 かの子
207	ガルスワーシーの家	岡本 かの子
208	家霊	岡本 かの子
209	川	岡本 かの子
210	河明り	岡本 かの子
211	狐	岡本 かの子
212	気の毒な奥様	岡本 かの子
213	兄妹	岡本 かの子
214	狂童女の恋	岡本 かの子
215	金魚撩乱	岡本 かの子
216	唇草	岡本 かの子
217	世界怪談名作集 01 序/目次	岡本 綺堂
218	中国怪奇小説集 01 凡例	岡本 綺堂
219	中国怪奇小説集 02 開会の辞	岡本 綺堂
220	中国怪奇小説集 03 搜神記(六朝)	岡本 綺堂
221	中国怪奇小説集 04 搜神後記(六朝)	岡本 綺堂
222	中国怪奇小説集 05 酉陽雜俎(唐)	岡本 綺堂
223	中国怪奇小説集 06 宣室志(唐)	岡本 綺堂
224	中国怪奇小説集 07 白猿伝・其他(唐)	岡本 綺堂
225	中国怪奇小説集 08 録異記(五代)	岡本 綺堂
226	中国怪奇小説集 09 稽神録(宋)	岡本 綺堂
227	中国怪奇小説集 10 夷堅志(宋)	岡本 綺堂
228	中国怪奇小説集 11 異聞総録・其他(宋)	岡本 綺堂
229	中国怪奇小説集 12 続夷堅志・其他(金・元)	岡本 綺堂
230	中国怪奇小説集 13 輟耕録(明)	岡本 綺堂
231	中国怪奇小説集 14 剪灯新話(明)	岡本 綺堂
232	中国怪奇小説集 15 池北偶談(清)	岡本 綺堂
233	中国怪奇小説集 16 子不語(清)	岡本 綺堂
234	中国怪奇小説集 17 閱微草堂筆記(清)	岡本 綺堂
235	次郎物語 01 第一部	下村 湖人
236	次郎物語 02 第二部	下村 湖人
237	次郎物語 03 第三部	下村 湖人
238	次郎物語 04 第四部	下村 湖人
239	次郎物語 05 第五部	下村 湖人
240	現代日本の開化	夏目 漱石
241	学者と名譽	夏目 漱石
242	京に着ける夕	夏目 漱石

243	虚子君へ	夏目漱石
244	ケーベル先生	夏目漱石
245	ケーベル先生の告別	夏目漱石
246	コンラッドの描きたる自然について	夏目漱石
247	作物の批評	夏目漱石
248	子規の画	夏目漱石
249	「自然を写す文章」	夏目漱石
250	趣味の遺伝	夏目漱石
251	初秋の一日	夏目漱石
252	西洋にはない	夏目漱石
253	戦争からきた行き違い	夏目漱石
254	作家の態度	夏目漱石
255	田山花袋君に答う	夏目漱石
256	艇長の遺書と中佐の詩	夏目漱石
257	『東洋美術図譜』	夏目漱石
258	道楽と職業	夏目漱石
259	中味と形式	夏目漱石
260	博士問題とマードック先生と余	夏目漱石
261	博士問題の成行	夏目漱石
262	「額の男」を読む	夏目漱石
263	文芸委員は何をするか	夏目漱石
264	文芸と道徳	夏目漱石
265	文芸とヒロイツク	夏目漱石
266	文芸の哲学的基礎	夏目漱石
267	文士の生活(夏目漱石氏-収入-衣食住-娯楽-趣味-愛憎-日常生活-執筆の前後)	夏目漱石
268	文壇の趨勢	夏目漱石
269	変な音	夏目漱石
270	僕の昔	夏目漱石
271	マードック先生の『日本歴史』	夏目漱石
272	無題	夏目漱石
273	明治座の所感を虚子君に問いて	夏目漱石
274	模倣と独立	夏目漱石
275	余と万年筆	夏目漱石
276	倫敦消息	夏目漱石
277	チベット旅行記	河口 慧海
278	ある宇宙塵の秘密	海野 十三
279	暗号数字	海野 十三
280	暗号音盤事件	海野 十三
281	浮かぶ飛行島	海野 十三
282	宇宙女囚第一号	海野 十三
283	宇宙尖兵	海野 十三
284	宇宙の迷子	海野 十三
285	海野十三氏の弁-探偵作家お道楽帳・その五	海野 十三
286	英本土上陸作戦の前夜	海野 十三
287	骸骨館	海野 十三
288	怪星ガン	海野 十三
289	階段	海野 十三
290	海底都市	海野 十三
291	鍵から抜け出した女	海野 十三
292	火星探険	海野 十三
293	『火星兵団』の作者の言葉	海野 十三
294	鞆らしくない鞆	海野 十三
295	棺桶の花嫁	海野 十三
296	間諜座事件	海野 十三
297	奇賊は支払う-烏啼天駆シリーズ・1	海野 十三
298	奇賊悲願-烏啼天駆シリーズ・3	海野 十三
299	キド効果	海野 十三
300	鬼仏洞事件	海野 十三
301	疑問の金塊	海野 十三
302	恐怖について	海野 十三
303	恐怖の口笛	海野 十三
304	共軌回転弾——金博士シリーズ・11——	海野 十三
305	恐竜艇の冒険	海野 十三
306	恐竜島	海野 十三
307	金属人間	海野 十三
308	空気男	海野 十三
309	空襲下の日本	海野 十三
310	空襲警報	海野 十三
311	空襲葬送曲	海野 十三
312	空中漂流一週間	海野 十三
313	「仮面」の人々	芥川 竜之介
314	あの頃の自分の事	芥川 竜之介
315	あばばば	芥川 竜之介
316	お富の貞操	芥川 竜之介
317	かちかち山	芥川 竜之介
318	ピアノ	芥川 竜之介
319	るしへる	芥川 竜之介
320	愛読書の印象	芥川 竜之介
321	或阿呆の一生	芥川 竜之介
322	或日の大石内蔵助	芥川 竜之介
323	或恋愛小説	芥川 竜之介

324	芋粥	芥川 竜之介
325	猿蟹合戦	芥川 竜之介
326	河童	芥川 竜之介
327	芥川竜之介歌集	芥川 竜之介
328	蛙	芥川 竜之介
329	袈裟と盛遠	芥川 竜之介
330	犬と笛	芥川 竜之介
331	齒車	芥川 竜之介
332	邪宗門(芥川 竜之介)	芥川 竜之介
333	秋	芥川 竜之介
334	神神の微笑	芥川 竜之介
335	西郷隆盛	芥川 竜之介
336	地獄変	芥川 竜之介
337	桃太郎	芥川 竜之介
338	内田百閒氏	芥川 竜之介
339	南瓜	芥川 竜之介
340	蜜柑	芥川 竜之介
341	羅生門の後に	芥川 竜之介
342	侏儒の言葉	芥川 竜之介
343	鴉片	芥川 竜之介
344	十円札	芥川 竜之介
345	蒐書	芥川 竜之介
346	悪魔	芥川 竜之介
347	兄貴のような心持——菊池寛氏の印象——	芥川 竜之介
348	或敵打の話	芥川 竜之介
349	或旧友へ送る手記	芥川 竜之介
350	或社会主義者	芥川 竜之介
351	闇中間答	芥川 竜之介
352	案頭の書	芥川 竜之介
353	飯田蛇笏	芥川 竜之介
354	遺書	芥川 竜之介
355	イズムと云ふ語の意味次第	芥川 竜之介
356	一番気乗のする時	芥川 竜之介
357	一夕話	芥川 竜之介
358	伊東から	芥川 竜之介
359	糸女覚え書	芥川 竜之介
360	犬養君に就いて	芥川 竜之介
361	岩野泡鳴氏	芥川 竜之介
362	魚河岸	芥川 竜之介
363	産屋 -萩原朔太郎君に献ず	芥川 竜之介
364	馬の脚	芥川 竜之介
365	海のほとり	芥川 竜之介
366	囃語	芥川 竜之介
367	運	芥川 竜之介
368	永久に不愉快な二重生活	芥川 竜之介
369	英雄の器	芥川 竜之介
370	江口渙氏の事	芥川 竜之介
371	槐	芥川 竜之介
372	老いたる素戔鳴尊	芥川 竜之介
373	往生絵巻	芥川 竜之介
374	鸚鵡——大震覚え書の一つ——	芥川 竜之介
375	大川の水	芥川 竜之介
376	大久保湖州	芥川 竜之介
377	○君の新秋	芥川 竜之介
378	尾形了齋覚え書	芥川 竜之介
379	おぎん	芥川 竜之介
380	お時儀	芥川 竜之介
381	おしの	芥川 竜之介
382	鬼ごっこ	芥川 竜之介
383	お律と子等と	芥川 竜之介
384	温泉だより	芥川 竜之介
385	女	芥川 竜之介
386	開化の良人	芥川 竜之介
387	開化の殺人	芥川 竜之介
388	貝殻	芥川 竜之介
389	解嘲	芥川 竜之介
390	格さんと食慾——最近の宇野浩二氏——	芥川 竜之介
391	影	芥川 竜之介
392	片恋	芥川 竜之介
393	学校友だち	芥川 竜之介
394	鴨猟	芥川 竜之介
395	軽井沢で	芥川 竜之介
396	カルメン	芥川 竜之介
397	枯野抄	芥川 竜之介
398	彼の長所十八——南部修太郎氏の印象——	芥川 竜之介
399	寒山拾得	芥川 竜之介
400	鑑定	芥川 竜之介
401	奇怪な再会	芥川 竜之介
402	機関車を見ながら	芥川 竜之介
403	奇遇	芥川 竜之介
404	「菊池寛全集」の序	芥川 竜之介

405	煙管	芥川 竜之介
406	木曾義仲論	芥川 竜之介
407	着物	芥川 竜之介
408	凶	芥川 竜之介
409	「鏡花全集」目録開口	芥川 竜之介
410	教訓談	芥川 竜之介
411	京都日記	芥川 竜之介
412	きりしとほろ上人伝	芥川 竜之介
413	疑惑	芥川 竜之介
414	金將軍	芥川 竜之介
415	鶴沼雜記	芥川 竜之介
416	孔雀	芥川 竜之介
417	首が落ちた話	芥川 竜之介
418	久保田万太郎氏	芥川 竜之介
419	久米正雄 —— 倣久米正雄文体 ——	芥川 竜之介
420	久米正雄氏の事	芥川 竜之介
421	軍艦金剛航海記	芥川 竜之介
422	芸術その他	芥川 竜之介
423	戯作三昧	芥川 竜之介
424	結婚難並びに恋愛難	芥川 竜之介
425	講演軍記	芥川 竜之介
426	剛才人と柔才人と	芥川 竜之介
427	好色	芥川 竜之介
428	後世	芥川 竜之介
429	校正後に	芥川 竜之介
430	合理的、同時に多量の人間味 —— 相互印象・菊池寛氏 ——	芥川 竜之介
431	黄梁夢	芥川 竜之介
432	黒衣聖母	芥川 竜之介
433	小杉未醒氏	芥川 竜之介
434	古千屋	芥川 竜之介
435	檸檬	梶井 基次郎
436	「青空語」に寄せて(昭和二年一月号)『青空』記事	梶井 基次郎
437	『青空』のことなど	梶井 基次郎
438	浅見淵君に就いて	梶井 基次郎
439	海	梶井 基次郎
440	温泉	梶井 基次郎
441	過古	梶井 基次郎
442	川端康成第四短篇集「心中」を主題とするヴァリエーション	梶井 基次郎
443	器樂的幻覚	梶井 基次郎
444	奎吉	梶井 基次郎
445	Kの昇天	梶井 基次郎
446	講演会 其他(大正十五年二月号)『青空』記事	梶井 基次郎
447	交尾	梶井 基次郎
448	詩集『戦争』	梶井 基次郎
449	城のある町にて	梶井 基次郎
450	「親近」と「拒絶」	梶井 基次郎
451	『新潮』十月新人号小説評	梶井 基次郎
452	雪後	梶井 基次郎
453	『戦旗』『文芸戦線』七月号創作評	梶井 基次郎
454	蒼穹	梶井 基次郎
455	太郎と街	梶井 基次郎
456	泥濘	梶井 基次郎
457	橡の花	梶井 基次郎
458	冬の蠅	梶井 基次郎
459	冬の日	梶井 基次郎
460	矛盾の様な真実	梶井 基次郎
461	闇の絵巻	梶井 基次郎
462	闇の書	梶井 基次郎
463	闇への書	梶井 基次郎
464	路上	梶井 基次郎
465	方丈記	梶井 基次郎
466	駒台の発案者	梶井 基次郎
467	手数将棋	梶井 基次郎
468	本因坊と私	梶井 基次郎
469	土佐日記	梶井 基次郎
470	真田幸村	梶井 基次郎
471	青木の出京	梶井 基次郎
472	芥川の事ども	梶井 基次郎
473	仇討禁止令	梶井 基次郎
474	仇討三態	梶井 基次郎
475	姉川合戦	梶井 基次郎
476	ある恋の話	梶井 基次郎
477	ある抗議書	梶井 基次郎
478	巖島合戦	梶井 基次郎
479	入れ札(戯曲)	梶井 基次郎
480	入れ札(小説)	梶井 基次郎
481	易と手相	梶井 基次郎
482	M侯爵と写真師	梶井 基次郎
483	応仁の乱	梶井 基次郎
484	大阪夏の陣	梶井 基次郎
485	大島が出来る話	梶井 基次郎

486	屋上の狂人	菊池 寛
487	桶狭間合戦	菊池 寛
488	小田原陣	菊池 寛
489	女強盗	菊池 寛
490	恩を返す話	菊池 寛
491	形	菊池 寛
492	川中島合戦	菊池 寛
493	義民甚兵衛	菊池 寛
494	吉良上野の立場	菊池 寛
495	勲章を貰う話	菊池 寛
496	極楽	菊池 寛
497	碁の手直り表	菊池 寛
498	差押へられる話	菊池 寛
499	志賀直哉氏の作品	菊池 寛
500	四條畷の戦	菊池 寛
501	賤ヶ岳合戦	菊池 寛
502	島原心中	菊池 寛
503	島原の乱	菊池 寛
504	出世	菊池 寛
505	俊寛	菊池 寛
506	「小学生全集」について	菊池 寛
507	小学生全集に就て(再び)	菊池 寛
508	将棋	菊池 寛
509	小説家たらんとする青年に与う	菊池 寛
510	勝負事	菊池 寛
511	ゼラール中尉	菊池 寛
512	船医の立場	菊池 寛
513	宮本武蔵 01 序、はしがき	吉川 英治
514	宮本武蔵 02 地の巻	吉川 英治
515	宮本武蔵 03 水の巻	吉川 英治
516	宮本武蔵 04 火の巻	吉川 英治
517	宮本武蔵 05 風の巻	吉川 英治
518	宮本武蔵 06 空の巻	吉川 英治
519	宮本武蔵 07 二天の巻	吉川 英治
520	宮本武蔵 08 円明の巻	吉川 英治
521	鳴門秘帖 01 上方の巻	吉川 英治
522	鳴門秘帖 02 江戸の巻	吉川 英治
523	鳴門秘帖 03 木曾の巻	吉川 英治
524	鳴門秘帖 04 船路の巻	吉川 英治
525	鳴門秘帖 05 剣山の巻	吉川 英治
526	鳴門秘帖 06 鳴門の巻	吉川 英治
527	〔雨ニモマケズ〕	宮沢 賢治
528	田園迷信 外94作品	宮沢 賢治
529	あけがた	宮沢 賢治
530	或る農学生の日誌	宮沢 賢治
531	泉ある家	宮沢 賢治
532	いちようの実	宮沢 賢治
533	インドラの網	宮沢 賢治
534	うろこ雲	宮沢 賢治
535	狼森と笹森、盗森	宮沢 賢治
536	おきなぐさ	宮沢 賢治
537	女	宮沢 賢治
538	貝の火	宮沢 賢治
539	カイロ団長	宮沢 賢治
540	学者アラムハラドの見た着物	宮沢 賢治
541	かしわばやし之夜	宮沢 賢治
542	花壇工作	宮沢 賢治
543	家長制度	宮沢 賢治
544	ガドルフの百合	宮沢 賢治
545	烏の北斗七星	宮沢 賢治
546	雁の童子	宮沢 賢治
547	革トランク	宮沢 賢治
548	饑餓陣営(一幕)	宮沢 賢治
549	疑獄元兇	宮沢 賢治
550	気のいい火山弾	宮沢 賢治
551	クねずみ	宮沢 賢治
552	蜘蛛となめくじと狸	宮沢 賢治
553	車	宮沢 賢治
554	黒ぶだう	宮沢 賢治
555	虔十公園林	宮沢 賢治
556	耕耘部の時計	宮沢 賢治
557	氷と後光	宮沢 賢治
558	さいかち淵	宮沢 賢治
559	サガレンと八月	宮沢 賢治
560	ざしき童子のはなし	宮沢 賢治
561	さるのこしかけ	宮沢 賢治
562	山地の稜	宮沢 賢治
563	シグナルとシグナレス	宮沢 賢治
564	紫紺染について	宮沢 賢治
565	鹿踊りのはじまり	宮沢 賢治
566	疾中	宮沢 賢治

567	詩ノート	宮沢賢治
568	十月の末	宮沢賢治
569	十六日	宮沢賢治
570	植物医師(郷土喜劇)	宮沢賢治
571	税務署長の冒険	宮沢賢治
572	[蒼冷と純黒]	宮沢賢治
573	大礼服の例外的効果	宮沢賢治
574	谷	宮沢賢治
575	種山ヶ原	宮沢賢治
576	タネりはたしかにいちにち噛んでいたようだった	宮沢賢治
577	チュウリップの幻術	宮沢賢治
578	ツェねずみ	宮沢賢治
579	月夜のけだもの	宮沢賢治
580	月夜のでんしんばしら	宮沢賢治
581	月夜のでんしんばしらの軍歌	宮沢賢治
582	土神と狐	宮沢賢治
583	手紙 一	宮沢賢治
584	手紙 二	宮沢賢治
585	手紙 三	宮沢賢治
586	手紙 四	宮沢賢治
587	電車	宮沢賢治
588	毒蛾	宮沢賢治
589	毒もみのすきな署長さん	宮沢賢治
590	床屋	宮沢賢治
591	図書館幻想	宮沢賢治
592	とっこべとら子	宮沢賢治
593	鳥箱先生とフウねずみ	宮沢賢治
594	鳥をとるやなぎ	宮沢賢治
595	檜ノ木大学士の野宿	宮沢賢治
596	虹の絵の具皿(十力の金剛石)	宮沢賢治
597	二十六夜	宮沢賢治
598	沼森	宮沢賢治
599	猫	宮沢賢治
600	農民芸術概論	宮沢賢治
601	農民芸術概論綱要	宮沢賢治
602	農民芸術の興隆	宮沢賢治
603	バキチの仕事	宮沢賢治
604	化物工場	宮沢賢治
605	函館港春夜光景	宮沢賢治
606	畑のへり	宮沢賢治
607	花巻農学校精神歌	宮沢賢治
608	花椰菜	宮沢賢治
609	林の底	宮沢賢治
610	茨海小学校	宮沢賢治
611	春と修羅	宮沢賢治
612	春と修羅 第三集	宮沢賢治
613	ひかりの素足	宮沢賢治
614	ピジテリアン大祭	宮沢賢治
615	ひのきとひなげし	宮沢賢治
616	氷河鼠の毛皮	宮沢賢治
617	双子の星	宮沢賢治
618	二人の役人	宮沢賢治
619	葡萄水	宮沢賢治
620	フランドン農学校の豚	宮沢賢治
621	文語詩稿 一百篇	宮沢賢治
622	文語詩稿 五十篇	宮沢賢治
623	ペンネンネンネンネン・ネネムの伝記	宮沢賢治
624	ペンネンノルデはいまはないよ 太陽にできた黒い棘をとりに行ったよ	宮沢賢治
625	北守将軍と三人兄弟の医者	宮沢賢治
626	ポラーノの広場	宮沢賢治
627	洞熊学校を卒業した三人	宮沢賢治
628	ポランの広場	宮沢賢治
629	マグノリアの木	宮沢賢治
630	祭の晩	宮沢賢治
631	まなづるとダアリヤ	宮沢賢治
632	マリヴロンと少女	宮沢賢治
633	みじかい木べん	宮沢賢治
634	めくらぶどうと虹	宮沢賢治
635	柳沢	宮沢賢治
636	山男の四月	宮沢賢治
637	やまなし	宮沢賢治
638	雪渡り	宮沢賢治
639	よく利く薬とえらい薬	宮沢賢治
640	四又の百合	宮沢賢治
641	ラジュウムの雁	宮沢賢治
642	龍と詩人	宮沢賢治
643	若い木霊	宮沢賢治
644	合図の旗	宮本百合子
645	青田は果なし	宮本百合子
646	秋の反射	宮本百合子
647	秋の夜	宮本百合子

648	葦笛(一幕)	宮本 百合子
649	兄と弟	宮本 百合子
650	雨が降って居る	宮本 百合子
651	雨と子供	宮本 百合子
652	雨の日	宮本 百合子
653	アメリカ文士気質	宮本 百合子
654	新たなプロレタリア文学(アレゴリーと諷刺)	宮本 百合子
655	あられ笹	宮本 百合子
656	ありがとうございます	宮本 百合子
657	有島さんの死について	宮本 百合子
658	麵くひ	桂 三木助
659	智恵子抄	高村 光太郎
660	開墾	高村 光太郎
661	回想録	高村 光太郎
662	珈琲店より	高村 光太郎
663	木彫ウソを作った時	高村 光太郎
664	九代目団十郎の首	高村 光太郎
665	気仙沼	高村 光太郎
666	黄山谷について	高村 光太郎
667	自作肖像漫談	高村 光太郎
668	詩について語らず —— 編集子への手紙 ——	高村 光太郎
669	自分と詩との関係	高村 光太郎
670	触覚の世界	高村 光太郎
671	書について	高村 光太郎
672	蝉の美と造型	高村 光太郎
673	装幀について	高村 光太郎
674	啄木と賢治	高村 光太郎
675	智恵子の紙絵	高村 光太郎
676	智恵子の半生	高村 光太郎
677	能の彫刻美	高村 光太郎
678	ヒウザン会とパンの会	高村 光太郎
679	美術学校時代	高村 光太郎
680	人の首	高村 光太郎
681	美の日本的源泉	高村 光太郎
682	ミケランジェロの彫刻写真に題す	高村 光太郎
683	緑色の太陽	高村 光太郎
684	山の秋	高村 光太郎
685	山の春	高村 光太郎
686	山の雪	高村 光太郎
687	(私はさきごろ)	高村 光太郎
688	子規居士と余	高浜 虚子
689	漱石氏と私	高浜 虚子
690	発行所の庭木	高浜 虚子
691	百日紅	高浜 虚子
692	古江	高浜 虚子
693	丸の内	高浜 虚子
694	回顧と展望	高木 貞治
695	ヒルベルト訪問記(1932年10月8日、ゲッチンゲンに於て)	高木 貞治
696	右門捕物帖 01 南蛮幽霊	佐々木 味津三
697	右門捕物帖 02 生首の進物	佐々木 味津三
698	右門捕物帖 03 血染めの手形	佐々木 味津三
699	右門捕物帖 04 青眉の女	佐々木 味津三
700	右門捕物帖 05 笛の秘密	佐々木 味津三
701	右門捕物帖 06 なぞの八卦見	佐々木 味津三
702	右門捕物帖 07 村正騒動	佐々木 味津三
703	右門捕物帖 08 卍のいれずみ	佐々木 味津三
704	右門捕物帖 09 達磨を好く遊女	佐々木 味津三
705	右門捕物帖 10 耳のない浪人	佐々木 味津三
706	右門捕物帖 11 身代わり花嫁	佐々木 味津三
707	右門捕物帖 12 毒色のくちびる	佐々木 味津三
708	右門捕物帖 13 足のある幽霊	佐々木 味津三
709	右門捕物帖 14 曲芸三人娘	佐々木 味津三
710	右門捕物帖 15 京人形大尽	佐々木 味津三
711	右門捕物帖 16 七化け役者	佐々木 味津三
712	右門捕物帖 17 へび使い小町	佐々木 味津三
713	右門捕物帖 18 明月一夜騒動	佐々木 味津三
714	右門捕物帖 19 袈裟切り太夫	佐々木 味津三
715	右門捕物帖 20 千柿の鰐	佐々木 味津三
716	右門捕物帖 21 妻恋坂の怪	佐々木 味津三
717	右門捕物帖 22 因縁の女夫雛	佐々木 味津三
718	右門捕物帖 23 幽霊水	佐々木 味津三
719	右門捕物帖 24 のろいのわら人形	佐々木 味津三
720	右門捕物帖 25 卒塔婆を祭った米びつ	佐々木 味津三
721	右門捕物帖 26 七七の橙	佐々木 味津三
722	右門捕物帖 27 献上博多人形	佐々木 味津三
723	右門捕物帖 28 お蘭しごきの秘密	佐々木 味津三
724	右門捕物帖 29 開運女人地蔵	佐々木 味津三
725	右門捕物帖 30 闇男	佐々木 味津三
726	右門捕物帖 31 毒を抱く女	佐々木 味津三
727	右門捕物帖 32 朱彫りの花嫁	佐々木 味津三
728	右門捕物帖 33 死人ぶろ	佐々木 味津三

729	右門捕物帖 34 首つり五人男	佐々木 味津三
730	右門捕物帖 35 左刺しの七首	佐々木 味津三
731	右門捕物帖 36 子持ちすずり	佐々木 味津三
732	右門捕物帖 37 血の降るへや	佐々木 味津三
733	右門捕物帖 38 やまがら美人影絵	佐々木 味津三
734	旗本退屈男 01 第一話 旗本退屈男	佐々木 味津三
735	旗本退屈男 02 第二話 続旗本退屈男	佐々木 味津三
736	旗本退屈男 03 第三話 後の旗本退屈男	佐々木 味津三
737	旗本退屈男 04 第四話 京へ上った退屈男	佐々木 味津三
738	旗本退屈男 05 第五話 三河に現れた退屈男	佐々木 味津三
739	旗本退屈男 06 第六話 身延に現れた退屈男	佐々木 味津三
740	旗本退屈男 07 第七話 仙台に現れた退屈男	佐々木 味津三
741	旗本退屈男 08 第八話 日光に現れた退屈男	佐々木 味津三
742	旗本退屈男 09 第九話 江戸に帰った退屈男	佐々木 味津三
743	旗本退屈男 10 第十話 幽霊を買った退屈男	佐々木 味津三
744	旗本退屈男 11 第十一話 千代田城へ乗り込んだ退屈男	佐々木 味津三
745	愛国百人一首に関連して	斎藤 茂吉
746	愛国歌小観	斎藤 茂吉
747	愛国百人一首評釈	斎藤 茂吉
748	雷談義	斎藤 茂吉
749	イーサル川	斎藤 茂吉
750	ヴェスヴィオ山	斎藤 茂吉
751	カフエ・ミネルワ	斎藤 茂吉
752	呉秀三先生	斎藤 茂吉
753	結核症	斎藤 茂吉
754	鯉	斎藤 茂吉
755	『さびし』の伝統	斎藤 茂吉
756	三年	斎藤 茂吉
757	島木赤彦臨終記	斎藤 茂吉
758	釈迦空	斎藤 茂吉
759	釈迦空に与ふ	斎藤 茂吉
760	子規と野球	斎藤 茂吉
761	支流	斎藤 茂吉
762	接吻	斎藤 茂吉
763	脱帽	斎藤 茂吉
764	ドナウ源流行	斎藤 茂吉
765	南京虫日記	斎藤 茂吉
766	日本艦	斎藤 茂吉
767	日本大地震	斎藤 茂吉
768	念珠集	斎藤 茂吉
769	蚤	斎藤 茂吉
770	人麿の妻	斎藤 茂吉
771	双葉山	斎藤 茂吉
772	仏法僧鳥	斎藤 茂吉
773	筆	斎藤 茂吉
774	遍路	斎藤 茂吉
775	孫	斎藤 茂吉
776	曼珠沙華	斎藤 茂吉
777	万葉秀歌	斎藤 茂吉
778	最上川	斎藤 茂吉
779	リギ山上の一夜	斎藤 茂吉
780	露伴先生	斎藤 茂吉
781	集団見合	坂口 安吾
782	あとがき[『いづこへ』]	坂口 安吾
783	雨宮紅庵	坂口 安吾
784	諦らめアネゴ	坂口 安吾
785	諦めている子供たち	坂口 安吾
786	悪妻論	坂口 安吾
787	足のない男と首のない男	坂口 安吾
788	新らしき文学	坂口 安吾
789	甘口辛口	坂口 安吾
790	哀れなトンマ先生	坂口 安吾
791	アングウ	坂口 安吾
792	安吾の新日本地理 01 安吾・伊勢神宮にゆく	坂口 安吾
793	安吾の新日本地理 02 道頓堀罷り通る	坂口 安吾
794	安吾の新日本地理 03 伊達政宗の城へ乗込む——仙台の巻——	坂口 安吾
795	安吾の新日本地理 04 飛鳥の幻——吉野・大和の巻——	坂口 安吾
796	安吾の新日本地理 05 消え失せた沙漠——大島の巻——	坂口 安吾
797	安吾の新日本地理 06 長崎チャンポン——九州の巻——	坂口 安吾
798	安吾の新日本地理 07 飛騨・高山の抹殺——中部の巻——	坂口 安吾
799	安吾の新日本地理 08 宝塚女子占領軍——阪神の巻——	坂口 安吾
800	安吾の新日本地理 09 秋田犬訪問記——秋田の巻——	坂口 安吾
801	安吾の新日本地理 10 高麗神社の祭の笛——武蔵野の巻——	坂口 安吾
802	安吾武者修業(馬庭念流訪問記)	坂口 安吾
803	家康	坂口 安吾
804	育児	坂口 安吾
805	囲碁修業	坂口 安吾
806	遺恨	坂口 安吾
807	居酒屋の聖人	坂口 安吾
808	意識と時間との関係	坂口 安吾
809	石の思ひ	坂口 安吾

810	いづこへ	坂口 安吾
811	一家言を排す	坂口 安吾
812	イノチガケ ——ヨワン・シローテの殉教——	坂口 安吾
813	生命拾ひをした話	坂口 安吾
814	『異邦人』に就いて	坂口 安吾
815	意慾的創作文章の形式と方法	坂口 安吾
816	淫者山へ乗りこむ	坂口 安吾
817	インテリの感傷	坂口 安吾
818	牛	坂口 安吾
819	海の霧	坂口 安吾
820	裏切り	坂口 安吾
821	エゴイズム小論	坂口 安吾
822	遠大なる心構	坂口 安吾
823	大井広介といふ男 ——並びに註文ひとつの事——	坂口 安吾
824	大阪の反逆	坂口 安吾
825	お魚女史	坂口 安吾
826	お喋り競争	坂口 安吾
827	お奈良さま	坂口 安吾
828	オモチャ箱	坂口 安吾
829	女占師の前にて	坂口 安吾
830	温浴	坂口 安吾
831	外套と青空	坂口 安吾
832	外来語是非	坂口 安吾
833	我鬼	坂口 安吾
834	罌堂小論	坂口 安吾
835	影のない犯人	坂口 安吾
836	かげろふ談義 ——菱山修三へ——	坂口 安吾
837	“歌笑”文化	坂口 安吾
838	カストリ社事件	坂口 安吾
839	風と光と二十の私と	坂口 安吾
840	風博士	坂口 安吾
841	悲しい新風	坂口 安吾
842	蟹の泡	坂口 安吾
843	神サマを生んだ人々	坂口 安吾
844	「花妖」作者の言葉	坂口 安吾
845	閑山	坂口 安吾
846	感想家の生れでるために	坂口 安吾
847	肝臓先生	坂口 安吾
848	源氏物語 02 帚木	紫式部
849	源氏物語 03 空蝉	紫式部
850	源氏物語 04 夕顔	紫式部
851	源氏物語 05 若紫	紫式部
852	源氏物語 06 末摘花	紫式部
853	源氏物語 07 紅葉賀	紫式部
854	源氏物語 08 花宴	紫式部
855	源氏物語 09 葵	紫式部
856	源氏物語 10 櫛	紫式部
857	源氏物語 11 花散里	紫式部
858	源氏物語 12 須磨	紫式部
859	源氏物語 13 明石	紫式部
860	源氏物語 14 澁標	紫式部
861	源氏物語 15 蓬生	紫式部
862	源氏物語 16 関屋	紫式部
863	源氏物語 17 絵合	紫式部
864	源氏物語 18 松風	紫式部
865	源氏物語 19 薄雲	紫式部
866	源氏物語 20 朝顔	紫式部
867	源氏物語 21 乙女	紫式部
868	源氏物語 22 玉鬘	紫式部
869	源氏物語 23 初音	紫式部
870	源氏物語 24 胡蝶	紫式部
871	源氏物語 25 螢	紫式部
872	源氏物語 26 常夏	紫式部
873	源氏物語 27 篝火	紫式部
874	源氏物語 28 野分	紫式部
875	源氏物語 29 行幸	紫式部
876	源氏物語 30 藤袴	紫式部
877	源氏物語 31 真木柱	紫式部
878	源氏物語 32 梅が枝	紫式部
879	源氏物語 33 藤のうら葉	紫式部
880	源氏物語 34 若菜(上)	紫式部
881	源氏物語 35 若菜(下)	紫式部
882	源氏物語 36 柏木	紫式部
883	源氏物語 37 横笛	紫式部
884	源氏物語 38 鈴虫	紫式部
885	源氏物語 39 夕霧一	紫式部
886	源氏物語 40 夕霧二	紫式部
887	源氏物語 41 御法	紫式部
888	源氏物語 42 まぼろし/ 源氏物語 43 雲隠れ	紫式部
889	源氏物語 44 匂宮	紫式部
890	源氏物語 45 紅梅	紫式部

891	源氏物語 46 竹河	紫式部
892	源氏物語 47 橋姫	紫式部
893	源氏物語 48 椎が本	紫式部
894	源氏物語 49 総角	紫式部
895	源氏物語 50 早蕨	紫式部
896	源氏物語 51 宿り木	紫式部
897	源氏物語 52 東屋	紫式部
898	源氏物語 53 浮舟	紫式部
899	源氏物語 54 蜻蛉	紫式部
900	源氏物語 55 手習	紫式部
901	源氏物語 56 夢の浮橋	紫式部
902	アインシュタイン	寺田 寅彦
903	アインシュタインの教育観	寺田 寅彦
904	ろくろ首	小泉 八雲
905	貉	小泉 八雲
906	高瀬舟	森 鷗外
907	舞姫	森 鷗外
908	足跡	石川 啄木
909	鳥影	石川 啄木
910	二筋の血	石川 啄木
911	悲しき玩具	石川 啄木
912	「晩年」に就いて	太宰 治
913	『井伏鱒二選集』後記	太宰 治
914	ヴィヨンの妻	太宰 治
915	おさん	太宰 治
916	お伽草紙	太宰 治
917	きりぎりす	太宰 治
918	トカトントン	太宰 治
919	パンドラの匣	太宰 治
920	或る忠告	太宰 治
921	一灯	太宰 治
922	一日の労苦	太宰 治
923	一步前進二歩退却	太宰 治
924	一問一答	太宰 治
925	陰火	太宰 治
926	右大臣実朝	太宰 治
927	嘘	太宰 治
928	姥捨	太宰 治
929	鷗	太宰 治
930	音に就いて	太宰 治
931	家庭の幸福	太宰 治
932	火の鳥	太宰 治
933	貨幣	太宰 治
934	海	太宰 治
935	喝采	太宰 治
936	玩具	太宰 治
937	帰去来	太宰 治
938	虚構の春	太宰 治
939	響応夫人	太宰 治
940	兄たち	太宰 治
941	思ひ出	太宰 治
942	緒方氏を殺した者	太宰 治
943	織田君の死	太宰 治
944	新しい形の個人主義	太宰 治
945	新ハムレット	太宰 治
946	親という二字	太宰 治
947	青森	太宰 治
948	川端康成へ	太宰 治
949	朝	太宰 治
950	津軽	太宰 治
951	津軽地方とチエホフ	太宰 治
952	眉山	太宰 治
953	美少女	太宰 治
954	富嶽百景	太宰 治
955	碧眼托鉢 —馬をさへ眺むる雪の朝かな—	太宰 治
956	老ハイデルベルヒ	太宰 治
957	鬱屈福	太宰 治
958	夜明け前 03 第二部上	島崎 藤村
959	夜明け前 04 第二部下	島崎 藤村
960	浮雲	二葉亭 四迷
961	たけくらべ	樋口 一葉
962	にごりえ	樋口 一葉
963	学問のすすめ	福沢 諭吉
964	アメリカの牛豚	北大路 魯山人
965	お茶漬けの味	北大路 魯山人
966	お米の話	北大路 魯山人
967	だしの取り方	北大路 魯山人
968	フランス料理について	北大路 魯山人
969	握り寿司の名人	北大路 魯山人
970	鮎の食い方	北大路 魯山人
971	鰻の話	北大路 魯山人

972	欧米料理と日本	北大路 魯山人
973	家庭料理の話	北大路 魯山人
974	甘鯛の姿焼き	北大路 魯山人
975	京都のごりの茶漬け	北大路 魯山人
976	胡瓜	北大路 魯山人
977	高野豆腐	北大路 魯山人
978	雑煮	北大路 魯山人
979	山椒魚	北大路 魯山人
980	若鮎について	北大路 魯山人
981	若鮎の塩焼き	北大路 魯山人
982	茶碗蒸し	北大路 魯山人
983	椎茸の話	北大路 魯山人
984	鍋料理の話	北大路 魯山人
985	日本料理の基礎観念	北大路 魯山人
986	美食七十年の体験	北大路 魯山人
987	美味しい豆腐の話	北大路 魯山人
988	美味放談	北大路 魯山人
989	鮪を食う話	北大路 魯山人
990	明石鯛に優る朝鮮の鯛	北大路 魯山人
991	料理と食器	北大路 魯山人
992	料理の第一歩	北大路 魯山人
993	料理メモ	北大路 魯山人
994	料理芝居	北大路 魯山人
995	みだれ髪	与謝野 晶子
996	晶子詩篇全集	与謝野 晶子
997	晶子詩篇全集拾遺	与謝野 晶子
998	古寺巡礼	和辻 哲郎
999	孔子	和辻 哲郎
1000	世界怪談名作集 18 牡丹灯記	瞿 佑